

**WEEKLY SIGNAL**

2019年9月13日(金) 1491号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	9/16(月)	9/17(火)	9/18(水)	9/19(木)	9/20(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券		+ 1,000	トシ	△ 1,000	△ 1,000
財政他		+ 6,100	△ 1,000	△ 11,000	+ 127,000
資金需給		+ 7,100	△ 1,000	△ 12,000	+ 126,000
主要要因		国債償還(2年) 国庫短期証券発行・償還(3M) 個人向け国債発行・償還		国債発行(20年)	国債償還 (5年、10年、20年、変動15年) 国庫短期証券発行・償還(1Y)
オペ期日		共通担保(全店) △ 2,200 CP等買入 △ 700 補充供給 + 100			
オペスタート	祝日	共通担保(全店) + 2,200 CP等買入 + 4,000			
(日本)			金融政策決定会合1日目 貿易収支(8月)	金融政策決定会合2日目 黒田総裁の記者会見	CPI(8月) 対外・対内証券投資(9月8-14日)
(海外)	米 NY連銀製造業景況指数(9月) 欧 欧州議会本会議	米 FOMC(18日まで) 米 鉱工業生産(8月) 米 NAHB住宅市場指数(9月)	米 ハウエルFRB議長記者会見 米 住宅着工件数(8月) 欧 ユーロ圏CPI(8月)	米 経常収支(2Q) 米 ファイアデルフィア連銀製造業 景況指数(9月) 米 新規失業保険申請件数 (14日終了週)	米 ホストン連銀総裁の講演

**【インターバンク市場】**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.025 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.025 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

**<インターバンク>**

日銀当座預金は週初、397兆7,100億円から始まった。同残高は12日には国債発行や源泉税揚げなどを主因に395兆円台まで減少し、週末となる13日には395兆9,900億円となった。  
無担保コールON物の加重平均金利は週初0.067%から始まった。10日以降、基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズの高まりから、同金利は徐々に上昇し12日には0.043%となった。積み最終日となる13日の同金利は前営業日対比+0.001%の0.042%となった。ターム物は1~2W物を中心に、主に△0.02%~△0.04%台での取引がみられた。  
ECBは12日に関した理事会で中銀預入金利を0.10%引き下げ△0.50%として3年半ぶりの利下げを決めた。また量的緩和については、11月から月間200億ユーロの規模で資産買入を再開する。  
来週は国内では、金融政策決定会合(18日、19日)、9月の月例経済報告(19日)、8月のCPI(20日)、海外では、9月のニューヨーク連銀製造業景況指数(16日)、

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**<C P>**

今週の入札発行総額は約8,200億円で、週間償還額(約8,000億円)とほぼ同額の発行があった。電気機器・ゴム・小売業態等からの大型発行があったものの、商社・その他金融等の大型償還もあって横ばいとなった模様。発行残高は大型償還が影響し、先週末の21兆5,457億円から減少し、12日時点では21兆3,400億円弱となった。発行レートは、引き続きマイナスから0%近辺での横ばい圏内の出合いであった。11日に、CP等買い入れオペが予定通り4,000億円でおファーされた。結果は、按分レート△0.009%・平均落札レート△0.006%と、前回(按分△0.006%・平均落札△0.003%)比で低下した。  
来週の償還総額(9/17~9/20)は、1兆2,500億円程度となっている。5・10日発行が予想されるが、中間期末を睨んで期日償還案件が多くなるとの恐れ、償還超と思われる。発行レートは、マイナス~0%近辺での出合いを予想する。

**<TDB>**

9日の6M856回債入札結果は最高落札利回り△0.2643%(前回債△0.1873%)、平均落札利回り△0.2883%(同△0.1934%)となった。また13日の3M857回債の入札結果は最高落札利回り△0.1236%(前回債△0.1563%)、平均落札利回り△0.1431%(同△0.1619%)となった。入札後857回債は△0.147%で取引された。セカンダリーでは、3M物が△0.17%~△0.186%、6M物が△0.27%~△0.28%、1Y物が△0.295%~△0.305%のレンジで出合いが見られた。11日に実施された国庫短期証券買オペは、5,000億円のオファーに対し、按分レートは+0.002%(前回結果+0.010%)、平均落札レートは+0.006%(前回結果+0.012%)となった。

**<レポ>**

足許GC取引は週初△0.085%~△0.06%で推移。以降週末にかけてレートは上昇し、積み最終日を跨ぐ13日受け渡しでは、一時△0.01%近辺での取引も見られた。新積み期に入った17日受け渡しでは、△0.08%での取引からスタートしたものの、短国3Mの発行もあり、後場には△0.06%~△0.05%まで上昇した。SC取引では2年402・403回債のbidが多く、週を通して多く取引された。他2年400・401・404回債、5年137・138・139・140回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353・354・355回債、20年164・165・166・167・168・169回債、30年59・62・63回債、40年9・10・11・12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。